

令和7年度 がん検診の案内

2人に1人はがんになり、3人に1人はがんで命を落とす時代です。しかし、がんは早期発見・早期治療すれば救命が可能です。自身の健康を守るために、定期的にがん検診を受けましょう。

<検診のメリット> 早期発見・早期治療による救命、がん以外の病気の発見と治療

<検診のデメリット> 診断が100%正確とは限らない、不必要な検査や治療につながる場合がある
検査で体に負担がかかる場合がある

※詳細は、日本対がん協会のHP「がん検診のメリット・デメリット」で検索してください。

国のがん検診指針に伴い、令和7年度からがん検診を以下の内容に変更します

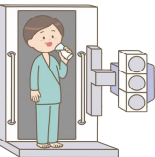
● 胃がん・乳がん・子宮頸がん検診は2年に1回の受診になります。

● 胃がん検診は、個別検診で内視鏡検査(胃カメラ)を導入します。

※各がん検診の実施医療機関につきましては、申込者に別途、詳細を案内します。

※検診協力医療機関での実施になります。医療機関は、ご希望に添えない場合があります。

● がん検診の種類と対象者等

検診の種類 対象者	大腸がん (便潜血)	肺がん (胸部 X 線)	胃がん: どちらか一方の検査		乳がん (マンモグラフィー)	子宮頸がん (細胞診)
			(バリウム) 	(胃カメラ) 		
20～39 歳	—	—	—	—	—	集団健診 または 個別検診
40～49 歳	集団健診	集団健診 ----- ※喀痰検査	集団健診	—	集団健診 または 個別検診	
50 歳以上				個別検診		
備考	1 年に1回受診可能 実施期間 集団健診(4 月～5 月) ※喀痰検査は、重喫煙者のみ 対象		2年に1回受診可能: 年度末偶数年齢の方 実施期間 各がん集団健診(4 月～5 月) 乳がん・子宮頸がん個別検診(5 月～12 月) 胃がん個別検診(7 月～12 月)			

<注意事項> 以下の方は検査が受けられません。

肺がん検診: 6ヵ月以内に血痰が出た方、妊娠中の方

胃がん検診(バリウム): 食道・胃・十二指腸の手術(腹腔鏡を含む)で切除された方、消化管を治療中の方、
バリウムや下剤にアレルギー有、日常的に強度の便秘や飲食時にむせる、妊娠中の方

胃がん検診(胃カメラ): 胃全摘手術の既往有、胃疾患(胃がん・胃潰瘍)治療中、妊娠中の方

*抗血栓薬(血液をさらさらにする薬)を内服中の方は主治医にご相談ください

乳がん検診: 自覚症状有、妊娠中、ペースメーカー装着、乳房形成や豊胸術有、胸部の皮下に医療器具の埋込の方

申込方法: Web または同封の申込書でお申込ください

【問い合わせ】南丹市 福祉保健部 健幸まちづくり課 0771-68-0016(平日 午前9時~午後5時)